

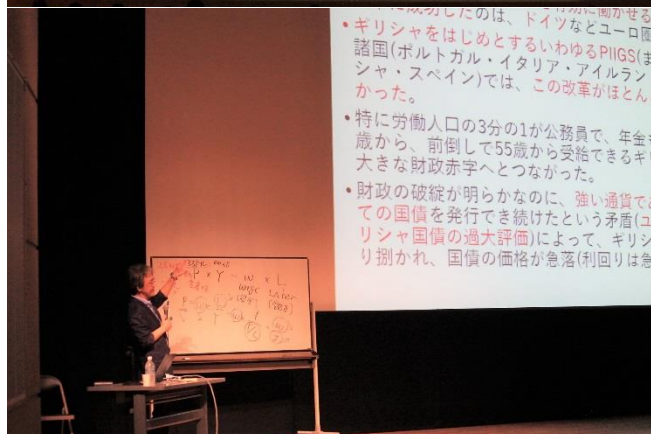
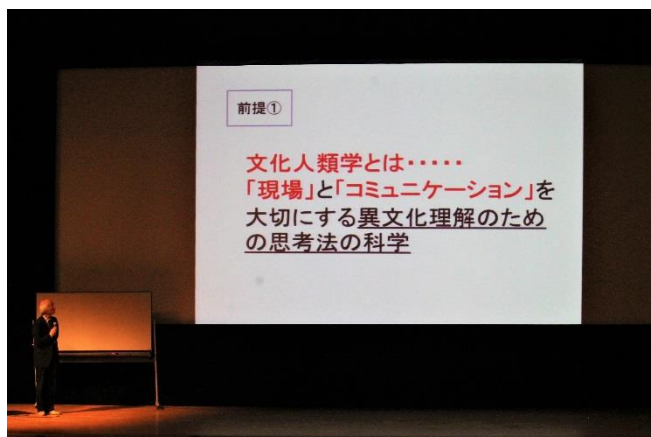
## 平成30年度「第2学年進路ガイダンス」

7月5日に第2学年進路ガイダンスを実施しました。

今年度は以下のような日程で4名の先生方に講義をしていただきました。

時間	文型〔198名〕	理型〔163名〕
14:25～ 15:10	広島大学 大学院総合科学研究科 社会文明研究講座 教授 高谷 紀夫	広島大学 大学院工学研究科 化学工学講座 准教授 磯本 良則
15:10～ 15:55	京都大学 京都大学公共政策大学院教授・院長 (専任) 京都大学経済学研究科教授(併任) 岩本 武和	京都大学 京都大学大学院農学研究科 食品生物科学専攻 食品分子機能学分野 助教 高橋 春弥

生徒は、文型、理型に分かれ、それぞれで、お二人の先生方の講義を聴きました。  
国立大学の講義の一端に触れ、自らの進路を考える上で貴重な時間となりました。



## 生徒の感想より

- 国際経済学は自分には難しいと感じた。しかし、お二方のお話から事実だけでなくご自身の考えや好みもよくわかりその違いが面白いと思った。将来につながることも大切だが、自分の興味がある学科の講義をたくさん受けてみようと思いました。
- 市場や経済のことは中学校や高校の1年生の時に勉強して、ある程度の事は知っているつもりでしたが、私の知らないことがまだまだたくさんありました。大学に行けばもっとたくさんを知ることができるのだと感じられました。それと「何のために学ぶのか」ということ。私が今学んでいる事は「役に立つ」のかを考えることがあります。でも学べば人生が豊かになるのは間違いないはずだと思います。
- 農学というものがどういうものか分かっていなかったので、それが知れてよかったです。自分の身の回りにある食品は自分がよく知らないもので、その真の姿を農学で明らかにしていくのだと思いました。夢中になれるものを見つけ、それを大学に行って明らかにできたらいいなと思いました。
- 「異文化理解」という言葉をよく耳にするが、そのためにはまず「自文化理解」をしなければいけないことが分かり、単に他文化を知るだけではダメだと気づいた。「当たり前」を疑う、「異なる」を楽しむということは難しいかもしれないけど、普段の生活の中でできれば、視野が広がり、生活が豊かになっていくのではないかなと思った。
- 腐食防食、材料力学のどちらも聞いたことがなかったので、とても難しくて分からないことだろうと思っていただけ、今習っていることがつながっているだけで、とても楽しかった。大学受験に向けて、詰め込み式に屈せず、好奇心、探究心、問題意識を持って「一生青春、一生勉強」でがんばっていきたいです。
- 大学の授業を模擬授業で実際に体験することができてよかった。大学には様々な学部があるが、それぞれの学部がどのような人を世界に輩出しようとしているかが違うということがわかった。
- 世界に数え切れないほど膨大な食品がある中で、今日はトマトだけ取り上げたお話だったのに、それだけでも奥が深かったです。今勉強していることが、このような食品の分野にも活けると分かり、驚きました。
- 今回の講義を受け、改めて「当たり前」は怖いものだなと思った。私たちが知らず知らずのうちに物事をこうだと思い込んでいる概念は、思っていた以上にたくさんあったのだと気づかされた。